

令和 2年度 杉並区施策評価表 I

(00004)

施策	04	利便性の高い快適な都市基盤の整備
目標	02	暮らしやすく快適で魅力あるまち
施策担当課	都市整備部管理課	関係課 市街整備土木管理土木計画狭あい土木事務

施策目標	<p>○道路と鉄道の立体交差化により、踏切による交通渋滞や事故、鉄道による地域分断が解消されるなど、地域の安全性や利便性が向上するとともに、地域コミュニティの活性化が進んでいます。</p> <p>○体系的な道路網の整備により、自動車交通の円滑化、歩行者の安全性や快適性が確保されています。また、狭あい道路の拡幅と電柱のセットバックが進み、防災性の向上と円滑な通行の確保が進んでいます。</p> <p>○施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの整備により、誰もが暮らしやすく、快適で魅力あふれるまちになっています。</p>
------	--

活動指標		成果指標	
指標名 (1)	杉並区バリアフリー推進連絡会等の開催回数	指標名 (1)	区内での定住意向
算式・指標説明		算式・指標説明	区民意向調査による
指標名 (2)	沿線まちづくり活動団体支援数	指標名 (2)	都市計画道路(区道)完成延長
算式・指標説明	まちづくり協議会への参加・協力等の回数	算式・指標説明	区内都市計画道路のうち整備完了した区道延長
指標名 (3)	道路拡幅整備距離	指標名 (3)	
算式・指標説明		算式・指標説明	
指標名 (4)	南北バス「すぎ丸」運行本数	指標名 (4)	
算式・指標説明		算式・指標説明	
		指標名 (5)	
		算式・指標説明	
		指標名 (6)	
		算式・指標説明	

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		目標値	目標年度			
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績					
活動指標	活動指標 (1)	1	回	2	2	2	2				
	活動指標 (2)	2	件	22	35	36	35	50			
	活動指標 (3)	3	m	8,297	9,500	8,325	10,000	7,410			
	活動指標 (4)	4	本	79,335	79,336	79,317	79,488	79,401			
成果指標	成果指標 (1)	5	%	85.0	88.5	87.6	89.0	87.0	90	令和 3年度	
	成果指標 (2)	6	m	7,022	7,022	7,022	7,022	7,022	8,052	令和 3年度	
	成果指標 (3)	7									
	成果指標 (4)	8									
	成果指標 (5)	9									
	成果指標 (6)	10									
施策コスト	事業費	11	千円	4,562,945	5,281,927	5,011,131	5,545,989	5,177,574	特記事項		
	(内) 投資的経費等	12	千円	1,894,088	2,556,680	2,409,090	2,392,334	2,260,095			
	(内) 委託費	13	千円	3,672,531	3,848,533	3,691,606	4,204,222	3,895,676			
	職員数	常勤職員数(再任用含)	14	人	92.43	86.02	92.54	83.36	92.08		
		上記以外の職員	15	人	10.90	10.80	10.53	12.92	11.50		
	人件費 (14+15+16)	17	千円	791,934	741,654	780,134	710,364	804,120			
	総事業費 (11+17)	18	千円	5,354,879	6,023,581	5,791,265	6,256,353	5,981,694			
	国・都等からの補助金等	19	千円	435,654	541,595	454,392	591,585	532,633			
	総事業費伸び率 (計画、実績の対前年度比)	20	%			8.1	3.9	3.3			
	人件費比率 (17÷18)	21	%	14.8	12.3	13.5	11.4	13.4			

<p>施策を取り巻く環境 (社会情勢、国、都の動き、 区民意見等)</p>	<p>鉄道連続立体交差事業は、踏切による交通渋滞や地域分断などの課題が解決できることから、早期の実現が望まれています。京王線、西武新宿線の「沿線各駅周辺地区まちづくり方針」で掲げるまちの将来像の具体化に向け、鉄道の立体化と地域の一体的なまちづくりを進めていきます。狭あい道路拡幅整備事業では、未後退箇所や道路に突出した電柱等が消防車や救急車など緊急車両の通行の支障となっています。そのため、首都直下地震の切迫性が指摘されている状況下からも支障物件の除却や道路拡幅整備の加速化が求められています。また、防災性の向上や利便性の高い快適な都市基盤を形成するため、「東京都における都市計画道路の整備方針」や「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき都市計画道路や生活道路の着実な整備が必要です。自転車駐車場等整備においては、民間事業者による自転車駐車場の整備を支援するために、民営自転車駐車場育成補助の更なる活用が必要です。</p>
---	--

<p>施策の総合評価 (計画事業の取組実績と 評価結果)</p>	<p>鉄道連続立体交差事業では、東京都から西武新宿線の連続立体交差化計画等の素案が示されたことから、区は上井草駅の「駅周辺道路・交通施設整備計画」を策定し、駅前広場計画等の素案説明会を開催するなど一体的に取組を進めました。京王線では平成30年から一部区間で工事着工しました。良好な住環境を整備し災害に強いまちづくりを整備するために狭あい道路の拡幅整備を着実に進め、これまでに34.7%の拡幅整備が完了しました。また、「杉並区狭あい道路の拡幅に関する条例」に基づき拡幅整備及び支障物件除却の指導等に取り組み、重点整備路線や整備地区等で拡幅整備の協力を得られた道路の拡幅整備工事を実施しました。</p> <p>区民の安全・安心を確保し快適な都市基盤を形成するため、「杉並区無電柱化推進方針」に基づいて防災等の視点から整備効果の高い4路線のうち優先的に整備を進める路線について概略設計を行いました。また災害に強いまちづくり都市基盤を整備するため、補助線街路第132号線について事業認可申請を行いました。さらに、民営自転車駐車場育成補助事業により、6駅11箇所において民間自転車駐車場の開設を促しました。ユニバーサルデザインのまちづくりでは重点整備地区である方南町駅周辺において、駅西側にエレベーターなどが設置されバリアフリー化が進みましたが、今後も駅東側エレベーターなどの設置について鉄道事業者などと協議を継続していきます。</p>
--	---

<p>改善・見直しの方向 中長期</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="392 815 734 869"> <p>今後の施策の方向性</p> </td> <td data-bbox="734 815 1548 869"> <p>拡充</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="392 869 734 1272"> <p>今後の進め方</p> </td> <td data-bbox="734 869 1548 1272"> <p>暮らしやすく快適で魅力あるまちづくりの実現に向けて、東京都、沿線区市、鉄道事業者や地域等の関係者が連携・協力し、鉄道連続立体交差事業の早期実現に向けた取組を進めていきます。</p> <p>狭あい道路拡幅整備事業では、平成28年6月の改正条例により定めた重点整備路線・支障物件に関する取組状況を公表します。また、拡幅を要件とした、危険ブロック塀等の解消のための助成制度の対象範囲を通学路から区内全域に拡充し、狭あい道路の拡幅整備をさらに促進していきます。</p> <p>区民の安全・安心を確保し快適な都市基盤を形成するため、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき、都市計画道路や主要生活道路の優先整備路線の整備を引き続き計画的に進めます。また、区道の無電柱化について、「杉並区無電柱化推進方針」に基づき、電線管理者等と調整を行いながら進めていきます。また、増加する大型自転車や買い者客等一時利用などの多様な駐車需要に対応するため、民間事業者による自転車駐車場の整備促進と併せて駐車設備の見直しを計画的・効果的に進めていきます。</p> </td> </tr> </table>	<p>今後の施策の方向性</p>	<p>拡充</p>	<p>今後の進め方</p>	<p>暮らしやすく快適で魅力あるまちづくりの実現に向けて、東京都、沿線区市、鉄道事業者や地域等の関係者が連携・協力し、鉄道連続立体交差事業の早期実現に向けた取組を進めていきます。</p> <p>狭あい道路拡幅整備事業では、平成28年6月の改正条例により定めた重点整備路線・支障物件に関する取組状況を公表します。また、拡幅を要件とした、危険ブロック塀等の解消のための助成制度の対象範囲を通学路から区内全域に拡充し、狭あい道路の拡幅整備をさらに促進していきます。</p> <p>区民の安全・安心を確保し快適な都市基盤を形成するため、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき、都市計画道路や主要生活道路の優先整備路線の整備を引き続き計画的に進めます。また、区道の無電柱化について、「杉並区無電柱化推進方針」に基づき、電線管理者等と調整を行いながら進めていきます。また、増加する大型自転車や買い者客等一時利用などの多様な駐車需要に対応するため、民間事業者による自転車駐車場の整備促進と併せて駐車設備の見直しを計画的・効果的に進めていきます。</p>
<p>今後の施策の方向性</p>	<p>拡充</p>				
<p>今後の進め方</p>	<p>暮らしやすく快適で魅力あるまちづくりの実現に向けて、東京都、沿線区市、鉄道事業者や地域等の関係者が連携・協力し、鉄道連続立体交差事業の早期実現に向けた取組を進めていきます。</p> <p>狭あい道路拡幅整備事業では、平成28年6月の改正条例により定めた重点整備路線・支障物件に関する取組状況を公表します。また、拡幅を要件とした、危険ブロック塀等の解消のための助成制度の対象範囲を通学路から区内全域に拡充し、狭あい道路の拡幅整備をさらに促進していきます。</p> <p>区民の安全・安心を確保し快適な都市基盤を形成するため、「すぎなみの道づくり（道路整備方針）」に基づき、都市計画道路や主要生活道路の優先整備路線の整備を引き続き計画的に進めます。また、区道の無電柱化について、「杉並区無電柱化推進方針」に基づき、電線管理者等と調整を行いながら進めていきます。また、増加する大型自転車や買い者客等一時利用などの多様な駐車需要に対応するため、民間事業者による自転車駐車場の整備促進と併せて駐車設備の見直しを計画的・効果的に進めていきます。</p>				

令和 2年度 杉並区施策評価表 I

(00005)

施策	05	良好な住環境の整備
目標	02	暮らしやすく快適で魅力あるまち
施策担当課	住宅課	関係課 都市整備部管理課 市街地整備課

施策目標	<p>○地域特性に応じた良好な住環境の保全・形成が進み、質の高い住宅都市「住み続けたいまち、住んでみたいまち」杉並として幅広く認識されています。また、歴史・文化、自然などの価値ある場所がネットワーク化され、まちの魅力・価値が高まっています。</p> <p>○区民が良質な住宅と良好な住環境の中で、ゆとりある住生活が送れるようになっています。</p> <p>○まちづくりに関する諸制度の的確な運用により、良好な市街地形成が進んでいます。</p>
------	---

活動指標		成果指標	
指標名 (1)	長寿命化修繕工事の工事か所数	指標名 (1)	住環境に満足する区民の割合
算式・指標説明		算式・指標説明	区民意向調査による
指標名 (2)	区営住宅管理戸数	指標名 (2)	最低居住面積水準未達の住宅に住む世帯の割合
算式・指標説明		算式・指標説明	住宅・土地統計調査による (5年に1度。29年度は25年度調査、30・元年度は30年度調査の実績値)
指標名 (3)	高齢者住宅管理戸数	指標名 (3)	
算式・指標説明		算式・指標説明	
指標名 (4)	民間アパートあっせん申請件数	指標名 (4)	
算式・指標説明		算式・指標説明	
		指標名 (5)	
		算式・指標説明	
		指標名 (6)	
		算式・指標説明	

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		目標値	目標年度			
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績					
活動指標	活動指標 (1)	1	所	2	2	2	4	4			
	活動指標 (2)	2	戸	944	944	944	944	944			
	活動指標 (3)	3	戸	353	353	353	353	353			
	活動指標 (4)	4	件	165	200	183	200	162			
成果指標	成果指標 (1)	5	%	91.1	93.5	92.7	94.0	92.6	95	令和 3年度	
	成果指標 (2)	6	%	19.5	12.0	15.7	8.5	15.7	5	令和 3年度	
	成果指標 (3)	7									
	成果指標 (4)	8									
	成果指標 (5)	9									
	成果指標 (6)	10									
施策コスト	事業費	11	千円	1,208,243	1,230,255	1,193,778	1,239,293	1,144,758	特記事項		
	(内) 投資的経費等	12	千円	88,170	71,624	71,624	104,617	104,616			
	(内) 委託費	13	千円	555,966	591,428	578,693	600,981	551,845			
	職員数	常勤職員数 (再任用含)	14	人	28.64	33.00	36.29	33.50	36.11		
		上記以外の職員	15	人	10.50	10.50	10.50	11.00	11.00		
	人件費 (14+15+16)	17	千円	272,795	301,925	326,239	300,282	331,806			
	総事業費 (11+17)	18	千円	1,481,038	1,532,180	1,520,017	1,539,575	1,476,564			
	国・都等からの補助金等	19	千円	120,055	136,024	127,774	150,871	142,426			
	総事業費伸び率 (計画、実績の対前年度比)	20	%			2.6	0.5	△2.9			
	人件費比率 (17÷18)	21	%	18.4	19.7	21.5	19.5	22.5			

<p>施策を取り巻く環境 (社会情勢、国、都の動き、 区民意見等)</p>	<p>東京都では、国の住宅セーフティネット法の改正を踏まえて、「東京都住宅確保要配慮者賃貸住宅供給促進計画」を策定し、住宅確保要配慮者の入居を拒まない住宅の供給促進や空き家の利活用等に取り組んでいます。また、平成31年3月に制定した「東京都におけるマンションの適正な管理の促進に関する条例」に基づき、マンションの管理不全を防止し、市街地環境の向上に取り組んでいます。</p> <p>このような状況により、各地域の課題解決や住環境維持のために、住民発意によるまちづくりの取組増加が予想され、地域の特性を踏まえながら課題解決等を図る、地区計画制度を活用したまちづくりの推進を目指します。</p>
---	---

<p>施策の総合評価 (計画事業の取組実績と 評価結果)</p>	<p>住宅確保要配慮者に対する賃貸住宅の促進に関する法律に基づき設立した杉並区居住支援協議会の事業である、住宅確保要配慮者に対するアパートあっせん事業では、申請件数は若干減少しましたが、物件情報提供率は大幅に増加しました。</p> <p>空家等の対策については、専門家による総合相談窓口において、空家等の所有者に助言・提案を行うなど、きめ細かな対応を行いました。また、特定空家等の所有者に対しては、杉並区空家等対策協議会の意見を踏まえて適切な対応を行い、特定空家等及び特定空家等に準じる老朽危険空家の除却工事費を助成するとともに、空家等対策の推進に関する特別措置法及び行政代執行法に基づき、除去等の代執行を開始することで、特定空家等の除却を進めるなど、改善を図りました。</p> <p>区有の既存住宅ストックである区営住宅については、積極的な長寿命化工事を行い、引き続き有効活用を図るとともに、居住者の高齢化に向けた対応を進めています。</p> <p>まちづくり施策では、阿佐ヶ谷駅北東地区において、地区計画等の都市計画決定を行いました。今後、地区計画等の内容に沿った建築計画の届出により、良好な住環境の形成を誘導します。また、まちづくりイベントの開催やまちづくりだよりの発行等により、まちづくりの取組に対する区民理解が深まっていることから、今後もより深い理解に向けた取組を継続して行います。</p>
--	--

<p>改善・見直しの方向 中長期</p>	<p>今後の施策の方向性</p> <p>現状維持</p> <p>杉並区居住支援協議会において、住宅確保要配慮者の民間賃貸住宅への入居の促進及び民間賃貸住宅の供給の促進に関する必要な措置について協議を行い、福祉部局との連携や構成団体間の調整など協議会の運営を支援し、杉並区における福祉の向上と住みやすい地域づくりを目指します。</p> <p>空家等の対策については、空家等の発生抑制と適正な管理について広く周知するとともに、管理不全な特定空家等の問題解決のため、杉並区空家等対策協議会の意見を踏まえ、適切に対応します。また、空家等の利活用に関わる課題整理やノウハウの収集のため、杉並区居住支援協議会や空家等に関するセミナーを行う事業者と連携し、引き続き空家等利活用モデル事業を行います。</p> <p>区営住宅については、バリアフリー対策の実施や長寿命化工事を計画的に進めるとともに、高齢者・障害者・子育て世帯への入居優遇策の拡充などの施策を検討します。</p> <p>また、「東京都におけるマンションの適正な管理の促進に関する条例」に基づく管理状況届出制度の運用により、マンションの管理不全を予防し、適正な管理を促進します。</p> <p>まちづくり施策については、住民発意によるまちづくりの取組や機運の高まり等を的確にとらえ、地区計画制度等を活用したまちづくりの推進を図るなど、地域特性を踏まえた土地利用の実現を目指します。</p> <p>今後の進め方</p>
--------------------------	---

令和 2年度 杉並区施策評価表 I

(00006)

施策	06	魅力的でにぎわいのある多心型まちづくり
目標	02	暮らしやすく快適で魅力あるまち
施策担当課	市街地整備課	関係課 産業振興センターみどり公園課文化交流課

施策目標
 ○荻窪駅周辺では、商業機能や生活利便施設の集積及び利便性の高い都市空間の形成など、「都市再生まちづくり」が着実に進んでいます。
 ○駅を中心に区内各地域の特性を活かした魅力のあるまちづくりが進み、多くの人を訪れたいようになるようににぎわいと活力が生まれています。
 ○まちなみ景観の視点から考えるまちづくり活動など区民一人ひとりの主体的な取組が進み、美しいまちなみづくりを支えています。
 ○「杉並」の知名度の高まりとともに、杉並の「良さ」、「らしさ」が区外にも周知され、持続的に集客力が高まり、にぎわいの創出につながっています。

活動指標		成果指標	
指標名 (1)	地元住民や各種団体、関係事業者等との打合せ回数	指標名 (1)	住環境に満足する区民の割合
算式・指標説明		算式・指標説明	区民意向調査による
指標名 (2)	駅周辺まちづくりに関する懇談会・意見交換会等の開催数	指標名 (2)	杉並区のまちを美しいと思う人の割合
算式・指標説明		算式・指標説明	区民意向調査による
指標名 (3)	景観新聞（景観録）の発行部数	指標名 (3)	区内全駅の1日平均乗降人員
算式・指標説明		算式・指標説明	各鉄道会社の公表による（JR4駅は乗車人員、他の駅は乗降人員の平均）実績及び目標値は前年度値を使用
指標名 (4)	中央線あるあるプロジェクト新聞PR回数	指標名 (4)	「すぎなみ学倶楽部」のアクセス数
算式・指標説明		算式・指標説明	ページビュー数
		指標名 (5)	
		算式・指標説明	
		指標名 (6)	
		算式・指標説明	

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		目標値	目標年度			
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績					
活動指標	活動指標 (1)	1	回	35	37	24	24	56			
	活動指標 (2)	2	回	8	8	7	5	10			
	活動指標 (3)	3	部	6,000	6,000	17,500	17,500	17,500			
	活動指標 (4)	4	回	16	16	16	16	17			
成果指標	成果指標 (1)	5	%	91.1	93.5	92.7	94.0	92.6	95	令和 3年度	
	成果指標 (2)	6	%	78.8	82.5	79.7	83.0	78.6	85	令和 3年度	
	成果指標 (3)	7	人	734,505	731,000	748,182	745,000	759,900	759,000	令和 3年度	
	成果指標 (4)	8	件	613,897	640,000	627,401	650,000	767,743	670,000	令和 3年度	
	成果指標 (5)	9									
	成果指標 (6)	10									
施策コスト	事業費	11	千円	179,401	185,843	175,240	189,639	178,496	特記事項		
	(内) 投資的経費等	12	千円	190	0	0	0	0			
	(内) 委託費	13	千円	110,127	110,735	106,534	116,450	110,703			
	職員数	常勤職員数（再任用含）	14	人	18.88	14.35	14.97	14.65	15.54		
		上記以外の職員	15	人	3.10	3.10	3.21	2.00	2.00		
	人件費 (14+15+16)	17	千円	171,325	131,991	136,054	129,619	141,638			
	総事業費 (11+17)	18	千円	350,726	317,834	311,294	319,258	320,134			
	国・都等からの補助金等	19	千円	9,646	5,488	6,147	12,492	11,877			
	総事業費伸び率 (計画、実績の対前年度比)	20	%			△11.2	0.4	2.8			
	人件費比率 (17÷18)	21	%	48.8	41.5	43.7	40.6	44.2			

<p>施策を取り巻く環境 (社会情勢、国、都の動き、 区民意見等)</p>	<p>これまで駅周辺は、まちづくりが進められて来ましたが、数十年が経ち環境の変化や建物の老朽化等により新たなまちづくりの必要性も出てきています。一方、既成市街地のため空地が少なく、再開発に伴う高度利用や商業地化に対して、様々な住民の意見があります。</p> <p>また、令和元年の訪日外国人旅行者数は約3,188万人(対前年比約2.2%増)となり、過去最高を更新しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今後の観光施策を取り巻く状況は不透明となっています。しかし、令和3年度に延期された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向けて、再び国内外から多くの観光客が東京を訪れることが見込まれます。そのような好機を逃さずに、地域に根差した「杉並ならではの」魅力ある観光コンテンツを広域的に情報発信し、区の「にぎわい・商機」の創出につなげていく必要があります。</p>
---	---

<p>施策の総合評価 (計画事業の取組実績と 評価結果)</p>	<p>「にぎわい創出」に向けた取組として、区内JR中央線4駅周辺の魅力を発信する「中央線あるあるプロジェクト」を始め、国内外に区の観光情報を発信する「観光情報発信事業」等、様々な事業展開を図りました。その中で、区民ライターが区内の様々な魅力を紹介するWEBサイト「すぎなみ学倶楽部」では、ページビュー数が767,743件となり、目標値を上回りました。アニメを活かした取組については、他区とのアニメ連携の枠組みを拡大して事業を実施する等により、区への持続的な集客を図りましたが、杉並アニメーションミュージアムの来館者数は、新型コロナウイルス感染症拡大による休館等の影響により目標値を下回りました。</p> <p>「景観まちづくり」の取組として、「杉並景観録」を17,500部作成、配布しました。また、荻窪駅周辺では、「荻窪駅周辺都市総合交通戦略」に基づく取組として、駅北口広場にクールスポットとしてミスト装置の設置や交通事業者等と意見交換を行い、荻窪駅周辺サイン基本ルール(案)を作成しました。荻外荘については、復原・整備に向けて、(仮称)荻外荘公園整備基本設計に着手しました。さらに、荻外荘周辺エリアの歴史的文化的観光資源を活用する「荻窪の歴史・まち・人を想う15の提案」を策定しました。西荻窪駅周辺では、まちづくり方針の策定に向けた取組として、昨年度に引き続き、まちづくり懇談会等を開催するとともに、まちづくりだよりによる情報発信を行いました。</p>
--	---

<p>今後の施策の方向性</p> <p>改善・見直しの方向</p> <p>中長期</p> <p>今後の進め方</p>	<p>現状維持</p> <p>観光施策については、今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況に応じて、近隣・近場での観光を楽しむマイクロツーリズムから、国内旅行の促進、さらに海外からの旅行者の受入れへと状況が変わっていくことが予想される中で、時機に応じた来街者の誘致を行い、区の「にぎわい創出につなげていくことが重要です。そのために、時機を適切に見ながら、「中央線あるあるプロジェクト」や「すぎなみ学倶楽部」等での情報発信、杉並アニメーションミュージアムの来館者数の増に向けたコンテンツ等の充実に取り組んでいきます。</p> <p>荻窪駅周辺については、三庭園(仮称)荻外荘公園、大田黒公園、角川庭園)の魅力を生かしたイベント等により機運醸成を図ります。また、乗換経路の改善を目指す「荻窪駅周辺サイン基本ルール」に基づく「(仮称)案内サイン整備基本計画」に従って、交通事業者と協力してサインの整備を行うとともに、(仮称)荻外荘公園の公開を見据え、地域の方々とともに荻窪の魅力と回遊性を向上させる取組を進めます。さらに、南北分断の解消と駅及び駅周辺の交通機能や利便性の向上に向けた分科会の設置について、調査・検討を行います。</p> <p>西荻窪駅周辺については、引き続き、地域住民等を対象としたまちづくり懇談会等を開催し、地域の動向を踏まえた、まちづくり方針の策定に向けた取組を進めます。</p>
--	---

令和 2年度 杉並区施策評価表 I

(00007)

施策	07	地域の特性を活かし将来を見据えた産業の振興
目標	02	暮らしやすく快適で魅力あるまち
施策担当課	産業振興センター	関係課

施策目標	<p>○区と区内産業経済団体等が一体となって様々な産業振興策を実施し、区内経済が着実に活性化してきています。</p> <p>○区内農業者等による地産地消の取組が行われ、学校給食へ農産物が提供されるなど、都市型農業の持つ多面性が活かされるようになってきています。</p> <p>○就労支援や創業支援等の取組により、多くの意欲ある現役世代等の就職が叶うとともに、創業が進んでいます。</p>
------	---

活動指標		成果指標	
指標名 (1)	融資あっせん件数	指標名 (1)	就労支援センターの利用により、就職が決定した人数
算式・指標説明		算式・指標説明	就労準備相談及びハローワークコーナーを利用し、就職が決定した人数
指標名 (2)	装飾LED化及び防犯カメラ設置補助商店街数	指標名 (2)	創業支援による創業者数
算式・指標説明		算式・指標説明	区が実施する特定創業支援事業を利用し、区内で創業した事業者数
指標名 (3)	農家戸数	指標名 (3)	商店街への満足度
算式・指標説明		算式・指標説明	区民意向調査による
指標名 (4)	就労準備相談・心としごとの相談件数	指標名 (4)	区内農業産出額
算式・指標説明		算式・指標説明	東京都農作物生産状況調査による (目標及び実績は、当該年度において直近でとれる数値)
		指標名 (5)	
		算式・指標説明	
		指標名 (6)	
		算式・指標説明	

区分	単位	平成29年度	平成30年度		令和元年度		目標値	目標年度			
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績					
活動指標	活動指標 (1)	1	件	522	1,000	563	1,000	521			
	活動指標 (2)	2	商店街	22	17	21	16	11			
	活動指標 (3)	3	戸	137	137	135	135	129			
	活動指標 (4)	4	件	1,851	2,150	1,591	2,150	1,505			
成果指標	成果指標 (1)	5	人	783	850 以上	719	850 以上	646	年850 以上	令和 3年度	
	成果指標 (2)	6	件	101	75	88	80	90	年45件	令和 3年度	
	成果指標 (3)	7	%	61.2	63	62.1	63	66.6	65	令和 3年度	
	成果指標 (4)	8	(百万円)	321	355	317	360	315	370	令和 3年度	
	成果指標 (5)	9									
	成果指標 (6)	10									
施策コスト	事業費	11	千円	742,450	2,179,394	2,120,574	768,919	678,923	特記事項		
	(内) 投資的経費等	12	千円	0	0	0	0	0			
	(内) 委託費	13	千円	219,547	253,408	238,303	225,460	216,202			
	職員数	常勤職員数 (再任用含)	14	人	16.75	15.00	16.60	15.50	18.28		
		上記以外の職員	15	人	10.15	11.00	11.00	10.00	11.00		
	人件費 (14+15+16)	17	千円	173,781	161,249	173,852	161,494	193,245			
	総事業費 (11+17)	18	千円	916,231	2,340,643	2,294,426	930,413	872,168			
	国・都等からの補助金等	19	千円	138,178	104,564	94,489	113,041	82,171			
	総事業費伸び率 (計画、実績の対前年度比)	20	%			150.4	△60.2	△62.0			
	人件費比率 (17÷18)	21	%	19.0	6.9	7.6	17.4	22.2			

<p>施策を取り巻く環境 (社会情勢、国、都の動き、 区民意見等)</p>	<p>近年、日本経済は穏やかな回復基調にありましたが、令和2年3月以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな打撃を受けています。この影響は今後も長引くことが見込まれ、区内の中小企業者や商店街等に適時適切な支援を施していく必要があります。</p> <p>農業では、特に都市部において相続や後継者不足などから農地面積及び農家戸数は減少傾向にあります。令和4年(2022)には、区内のほとんどの生産緑地が指定から30年の期限を迎えることもあり、これらの生産緑地の所有者に対し新たな農地保全制度である特定生産緑地の指定に向けての周知・支援を図ることが重要となっています。こうした中、農地は新鮮な地元農産物の生産の場のみならず、区民にやすらぎや潤いを与える場、防災上のオープンスペース等の多様な役割を果たすものであるため、引き続き適切に保全を図る必要があります。</p>
<p>施策の総合評価 (計画事業の取組実績と 評価結果)</p>	<p>平成30年度に改定した杉並区産業振興計画に基づき、区内産業の振興に取り組みました。</p> <p>新たな商店街活性化策として、若手商業者との懇談会やワークショップによる魅力ある商店街づくりを進めることを検討しました。また、計11商店街に裝飾灯のLED化や防犯カメラの設置補助を実施し、安心・安全な商店街の環境整備を支援しました。中小企業支援では、中小企業資金融資あっせん制度の「創業支援資金」利率の引き下げや、都の信用保証料補助併用の見直しを行ったものの、融資あっせん件数は平成30年度と比較して42件の減少となりました。新型コロナウイルス感染症の影響に関しては、令和2年3月に「新型コロナウイルス感染症対策特例資金」を新設するとともに、商工相談員を増員し、相談体制の充実を図りました。</p> <p>農業分野では、都市農地の保全と都市農地が持つ多面的な機能を発揮する新たな取組として、農業と福祉の連携事業を区民ボランティアの協力を得ながら推進し、農福連携農園で収穫体験や収穫物の福祉施設への提供などを実施しました。農家戸数は年々減少傾向(平成30年度比6戸減)にあり、区内農業産出額は微減(平成30年度比2百万円減)傾向にあります。引き続き、農業者に特定生産緑地制度など農地保全のための新たな制度の周知とともに、区民が気軽に農業に親しめる機会の創出に努め、農業への理解を深めていきます。</p>
<p>今後の施策の方向性</p> <p>改善・見直しの方向</p> <p>中長期</p> <p>今後の進め方</p>	<p>現状維持</p> <p>区内産業経済団体等と連携し杉並区産業振興計画を着実に推進していくとともに、適時適切な新型コロナウイルス感染症対策を実施していきます。</p> <p>中小企業支援では、新型コロナウイルス感染症の影響により売上げが減少したり、経営が困難となった中小企業などへの支援として、店舗の家賃助成や廃業した事業者への家賃助成など新たな事業を実施します。また、近年改善傾向にあった雇用についても、今後、悪化が懸念されることから、引き続き一人ひとりの状況に応じた就労支援を継続していきます。</p> <p>商店街支援では、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、イベント事業への補助や若手事業者との懇談会等により新たな商店街活性化策の検討を進め、にぎわい回復の支援につなげていきます。</p> <p>農業においては、引き続き、特定生産緑地等の新たな制度周知と、区民が農にふれあう機会の創出や地産地消の推進などに継続的に取り組み、都市農地の保全につなげていきます。</p> <p>また、農業と福祉の連携事業では、農園運営と平行して農園のPRや区民ボランティアの募集などを進めながら、区内福祉施設等の運営に寄与する取組の充実を図り、管理棟など必要な工事を進め令和3年4月の全面開園を目指します。</p>